



坂総合病院HP「医学生のひろば」より過去の坂坂がご覧になれます。

〈発行〉

坂総合病院
医学生と共に歩む委員会

連絡先・塩釜市錦町16-5

☎022-367-9007

2015年11月1日

No. 69号

どうなる新専門医制度？どうする自分？

坂総合病院 リハビリテーション科
科長 藤原 大 医師

2017年より「新専門医制度」が適用される。現在医学生である皆さんは当然対象となりますが、この制度は医師のキャリアデザインや地域医療に大きな影響を与えるものになります。今回は、制度発足に至る背景とその特徴を解説しますが、今後の動向に各自充分にアンテナを張っておくことをお奨めします。

① 新専門医制度発足の背景

日本の専門医は、各学会が独自に要件を定めたり、認定試験を行ったりし、条件を満たした医師を専門医として認めてきました。一方で、現在の方法では、制度の統一性がないことや、認定プロセスが不明確な学会などの問題が指摘されてきました。そのため、国民からも公の資格として「専門医」が受け入れられるものになっていない現実がありました。これらの問題点を踏まえて、「新専門医制度」は2011年10月から「専門医の在り方に関する検討会」が発足し議論が始まりました。新専門医制度では第三者機関が認証機関となるため、その機関として「一般社団法人 日本専門医機構」が2014年5月に発足しました。

② 新専門医制度の特徴

〈専門医の定義〉

「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と定義され、基本領域のいずれか一つの専門医資格を取得することを、事実上努力義務と規定します。

〈2階建て設計〉

専門医は19の基本領域の上に、サブスペシャリティを設けます。

〈総合診療専門医の創設〉

19番目の基本領域として「総合診療専門医」を創設し、その役割を「日常的に頻度が高く、幅広い領域の疾病と障害等について、我が国の医療提供体制の中で適切な初期対応と必要に応じた継続的医療を全人的に提供する」としています。

〈第三者機関による認定〉

研修プログラムや個々の医師の資格認定・更新については、第三者機関が行うこととし、資格認定・更新条件として診療実績をより重視するように定めています。

〈養成数の定員設定〉

「基幹施設」の認定基準を引き上げ、大学や大病院中心に新たに病院群を形成することを推奨し、その養成数については地域事情を勘案し「定員」を設定します。

専門医制度がこれまで以上に整備され「画一化」される一方で、これからその道に進む皆さんにとっては、何が大事なのでしょうか？専門医資格を取得することの意味は大きいとは思いますが、本当に求められるのは、その後の”働きかた”ではないですか？「何科を選ぶか？」の前に、「どのように働きたいか？どんな医師でいたいか？」という問いが出てきませんか？これを機会に、自身の将来の「医師像」や「医療観」を改めて考えてみることをお奨めします。大いに語り合いましょう！

「血管は触れられねばならない」

～医療の現場で学ぶということ～

坂総合病院 初期研修医 河野 友勝



“Quaedam non nisi a praesente monstrantur. Non potest medicus per epistulas cibi aut balinei tempus eligere; **vena tangenda est.**” - Seneca, *Epistulae morales ad Lucilium*

「ある種の物事は、(その場に実際に)居合わせた人によってのみ指摘される。医者(は手紙(を読んだだけ)では(患者の)食事や入浴の時間を処方することはできない。血管は触れられねばならないのだ」 - セネカ『倫理書簡集』, 拙訳

光陰矢の如しとはよく言ったもので、気が付くと9月も終わろうとしている。あれほど喧しく鳴いていたはずの夏の蝉たちもすっかりとその姿を地の深くに潜めてしまい、それと時をほぼ同じくして塩釜の街に小気味のよい秋風が吹きはじめた。

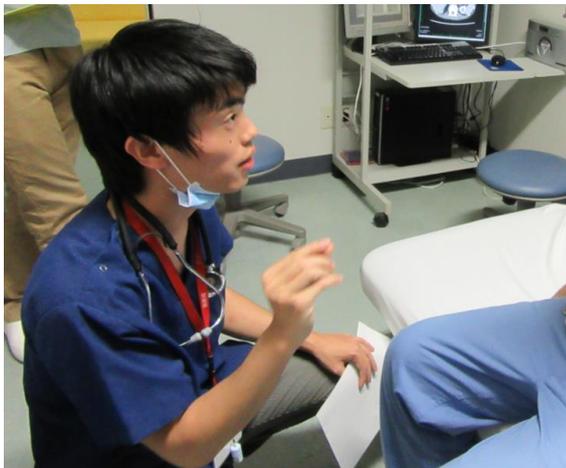
そう、ここに来てから早くも半年の月日が経ったのだ。この半年間は、自らの無力さ非力さにただひたすら打ちひしがれる日々の連続であった。そんな中、自分は果たして多少なりとも成長できたのだろうか？優秀な同期たちに比べると歩みは恐ろしく遅い、物分りも悪い。しかしそれでも、現場に出る前の自分と今の自分とを比較すると、やはりそこには歴然たる差が存在する。それが傍から見ればいかに微々たる違いに過ぎないとしても。

冒頭に引用した古代ローマの哲人・セネカの言の通り、ある種の物事は実践の中においてしか学ばれない。幸いにもこの病院の研修は徹底した現場主義に貫かれている。患者の訴えを聞き、その脈に触れ、顔色や息遣いを観察し、胸や腹に聴診器を当てる。毎日、何十枚もの胸部写真や心電図に目を通す。6か月間、(曲がりなりにも)医師として仕事に取り組み中で、不器用な自分にも僅かずつではあるが、見えてきたものがある(ような気がする)。あと半年後には、あるいはまた今とは異なる風景が眼前に開けているのかもしれない。いや、是非ともそうであってほしい。

...そのように願いながら、今日も私は白衣を羽織り、病棟に足を踏み入れるのだ。

初期研修医対象！

坂総合病院スキルアップカリキュラム



■ OSCE ■

先輩医師を悩ませた症例をもとに、先輩医師がシナリオを作成し、客観的臨床能力試験を行っています。



■ 研修医会 ■

研修医が、自分たちで学びたいテーマを探し上級医に講師を依頼したりより日常診療に役立つ学習をする会。

(↑CV穿刺講習会の様子)

『みちのく総合診療医学センター』

選んだ理由



みちのく総合診療医学センター
後期研修医1年目 黒木史仁

皆さん、こんにちは。後期研修医1年目の黒木史仁です。今年度より、みちのく総合診療医学センター（以下「みちのく」と略）に所属しています。今回「みちのく」の紹介をお願いされ、筆を取っています。

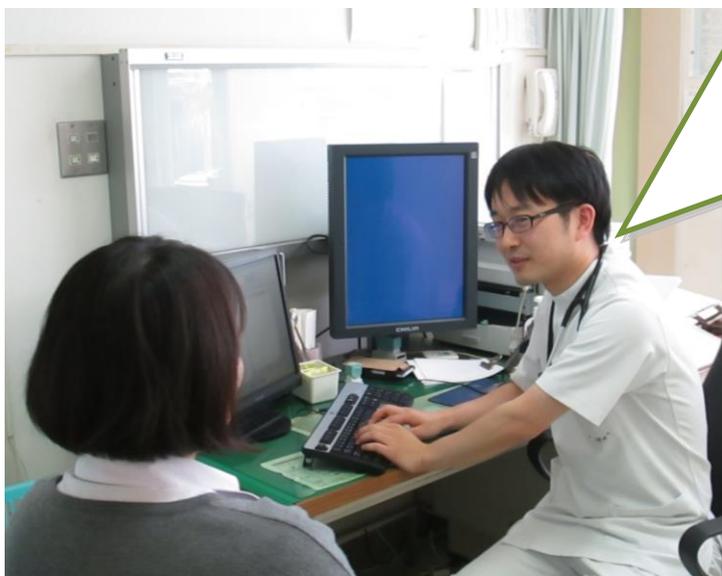
そういう私は生まれも育ちも宮崎県、宮崎大学卒の純粋九州男児です。さて、この九州男児がどうして遥々初期研修は坂総合病院、後期研修はみちのくに決めたのか。その理由をお話するとともに、みちのく総合診療医学センターの魅力の一端に触れられたらと思います。

私が、坂総合病院を選んだのは大学4年生のときでした。その理由は、①坂総合病院や関連病院であれば、プライマリ・ケアに精通した先生方から、プライマリ・ケアを学ぶことができること、②約350病床数で中規模病院であり、経験できる症例も豊富であること、③院内コンサルトがしやすいこと、④当直・救急当番・在宅往診の独り立ちが早く、より患者さんと濃厚に関わることができることが挙げられます。そして、最後に、2011年3月11日震災が起きた東北の地域で、学びを深め、そして少しでも何か役に立ちたいと思った事も一因です。2013年より初期研修を行なう中で、みちのくにも上記魅力があることに気づき、家庭医療・総合診療を学びたいと思い、後期研修をみちのくと決めました。

みちのくは、ジェネラリストを育成する総合診療の教育機関です。そこでは、宮城厚生協会の病院・診療所をベースにローテート研修を行ない、主に「家庭医療専門医」や、新専門医制度での「総合診療専門医」の取得を目指しつつ、自分のこれからの医師像・医療観、臨床能力、素養を創っていきます。

みちのくの最大の魅力は、専門医取得に向けた必要な科の研修以外は、研修施設・選択科となっているものであれば、どの科・どの病院を学びたいかをオーダーメイドできることです。自分が将来に必要なと思われることをやることができ、実際私のこの1年は、リハビリテーション科から始まり、古川民主病院で内科外来ならびに訪問診療を積極的に行なっています。

じゃあ、実際の研修の中身は…文字数が足りないので、今回はこの辺で。詳しくはみちのく Blog で。Blog は、みちのくメンバーが無理ない範囲で更新を続けていくので、ぜひみてくださいね。



家庭医療・総合診療・ER救急を担うジェネラリスト医師を育成

↓みちのく総合診療医学センター
<http://www.miyagi-min.com/general/>

↓後期研修医ブログ
<http://mcpjg.hateblo.jp/>

みてね(^v^)



夏の高校生・予備校生1日医師体験

今年の夏の高校生・予備校生1日医師体験には、参加者数17名(坂14名、長町2名、古川1名)と多くの学生さんが参加しました。参加者の傾向としては、高校1・2年生や予備校生が参加しており、東松島や仙台、岩沼など様々な地域から参加されました。坂病院の名前は知っている、親戚が入院したことがある学生さんの中にはいました、初めて来る学生さんも多くいました。参加者の中には、以前も参加されて再度来たいということで今回2回目の参加者も数名おり、楽しみにされている様子が伝わってきました。

高校生の体験ということで、病棟や外来見学の他にリハビリ、生理検査、放射線、検体検査、ME、運動療法センターのびのび、薬局など多種多様な部署の見学・体験を行いました。職員の話を聞いて見学をすることや実際に機械を動かしてみたりして、業務内容に触れることなどなかなかできない体験をして学生さんも満足していました。1・2年目の医師との昼食懇談では、医師を目指すようになったきっかけや学生時代の勉強方法、研修医の普段の生活などのお話をしていました。学生さんからの様々な質問に対してとても真面目に、ときにはユーモアいっぱいにお返事をされていて、昼食懇談は大いに盛り上がり大好評でした！参加された学生さんは「1人1人の患者さんのために、医師だけでなく医療に関わるすべての人が協力して治療を行っていることが印象に残りました。」「医師懇談でのお話がすごく楽しかったです！！」「仕事の一部を体験させていただき、実感することができて良かったです。」などといった意見が出ており、病院とは、医師とはといったことについていろいろと考えることが出来たのではないのでしょうか。

1日医師体験は春・夏に実施していますので、実際に現場をみて勉強のモチベーションに繋げてはいかがでしょうか。皆さんの参加をお待ちしております！！



↑ 生理検査室



↑ 臨床工学室



↑ 薬局

高校生医師体験の情報は↓
坂総合病院

「医学生・研修医のひろば」

<http://www.miyagi-min.com/intern/>

高校生・予備校生1日医師体験
でご案内しております。

見に来てね～！！

